

令和 2 年 6 月 7 日現在

機関番号：12606

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02301

研究課題名(和文)「朝日会館」を巡る文化活動の記録化とその歴史的影響の分析

研究課題名(英文) Documentation of the Cultural Activities Originating from the "Asahi Kaikan" and Analysis of Their Historical Influence

研究代表者

山上 揚平 (YAMAKAMI, Yohei)

東京藝術大学・音楽学部・講師

研究者番号：20637079

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：総合文化施設であった大阪朝日会館の多岐にわたる活動の全貌を、多領域(洋楽、邦楽、美術、演劇、映画、文学、雑誌研究、等々)の専門家による共同作業によって詳らかにし、ジャンル間交流の場としての「会館」の新たな側面を描き出した。20年以上に亘って刊行された機関誌『会館芸術』の包括的な分析に加え、運営母体であった社会事業団の活動全体に調査を広げることによって、その文化的理念や戦略を一層明確にし、「会館」及びその機関誌の同時代文化状況に於ける固有の立ち位置や、それらが果たした役割の歴史的意義および影響力の射程をより正確に再評価することを可能とした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

戦前・戦中・戦後と一貫して大阪文化の中心としての役割を果たした大阪朝日会館の分析を通して、戦後から現代に繋がる文化とそれ以前との間に断絶ではなくむしろ多くの重要な連続性を明らかにしたこと、特に占領地における文化活動の戦後の文化的発展への重要な影響例を指摘出来たことは、関西モダニズム研究に止まらず広く日本の戦後文化史研究にとっても示唆的な成果であると考えられる。また中央/官主導ではない、一私企業の厚生事業の一環として打ち出された文化戦略がその土地固有の文化条件の中で独自の展開を遂げ、重要な歴史的影響を与えた一事例を明らかにした事は、日本の文化史研究全体に対しても意義のある貢献であったと思われる。

研究成果の概要(英文)：The full particulars of the wide-ranging activities of the "Osaka Asahi Kaikan," which was a comprehensive cultural facility, were detailed through the cooperation of specialists in various fields (Western music, Japanese music, fine art, theater, film, literature, research on magazines, etc.) in order to depict a new aspect of the "Kaikan" as a forum for interaction between genres.

In addition to comprehensive analysis of "Kaikan geijutsu," which was the facility's bulletin that was published for over 20 years, expansive research on all of the activities of the foundation that served as the operating body of the facility shed further light on its cultural principles and strategies, making it possible to reassess the unique standpoint of the "Kaikan" and its bulletin amid the cultural conditions of the time, as well as their role, historical significance, and range of influence, with higher precision.

研究分野：音楽学

キーワード：芸術研究 雑誌研究 文化施設 関西モダニズム

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究が対象とする朝日会館とは朝日新聞社が様々な催物の場として建設した多目的文化施設であり、その嚆矢である大阪朝日会館は、1926年、「音楽、文学、美術三位一体の芸術文化の殿堂」を目指して当時の関西圏では珍しい大規模ホールに展覧会場を併設する形で誕生した。これまでこの会館は、当時を知る人々の回想、証言の中でかつて関西文化の重要な中心地であった事が繰り返し語られてきたが、『あの花、この花』(1977)、『なつかしの大阪朝日会館』(2004)等、一方でそれを客観的資料に基づき学術的に明らかにする研究は長らく存在せず、また「会館」の歴史を知る上で重要な一次資料である機関誌的存在『会館芸術』も包括的な研究や雑誌復刻の対象とはなっていない。研究代表者及び研究分担者らはこのような状況を受けて、平成24年に研究会を立ち上げ、『会館芸術』の所在調査、収集および大阪朝日会館を対象とした学際的研究を開始したが、依然として以下の様な課題が残されていた。

- (1) 会館における催物および『会館芸術』で扱われている芸術・芸能のジャンルが非常に多岐に亘り、会館の包括的な研究には更に多様な専門家との協力、連携が必要とされた。
- (2) 会館における興業活動の実態と機関紙『会館芸術』によって記述される会館像との間に「ずれ」が存在し、会館における文化活動をより正確に把握する為には、新聞、プログラム、チラシ等の様々な資料による補完が必要であった。
- (3) 神戸、京都、名古屋などにも同型の文化施設である「朝日会館」が存在し、大阪朝日会館とある程度連動した活動を行っていたが、資料の地方分散などの要因でこれらの施設の調査は手つかずとなっていた。
- (4) 往時の朝日会館を知る関係者の高齢化が進み、早急にインタビュー取材などによってオーラル・ヒストリー資料の保全が望まれる状況にあった。

2. 研究の目的

本研究は総合文化施設であった「朝日会館」を舞台に営まれた様々な文化活動を出来る限り網羅的に精査してその記録化を行い、幅広いジャンルの専門家による分析、討議を経てその文化史的位置づけを目指すものである。昭和モダニズム期、地元一線の芸術家、文化人、企業家らによる独自の人的ネットワークの結節点となった「会館」は、それによって質の高い芸術・芸能公演を成功させると共に、会館の催物に連動した機関誌であり且つ総合芸術雑誌でもある『会館芸術』の出版や聴衆・観衆団体の組織など新しい文化普及のモデルも生み出した。これらの運営方針・方法を支えた独自の文化的理念や戦略を明確にし、「朝日会館」がもたらしたものの歴史的意義、文化形成に及ぼした現在に至る影響を明らかにすることが本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究は以下のような作業によって進められた。

(1) 大阪朝日会館における興行実態の更なる精査：

機関誌『会館芸術』の告知から漏れていた興行状況を、朝日新聞社の社内報や内部資料、新聞、各種芸術専門誌、チラシ等の資料から補足する。具体的には『会館芸術』誌面に載ることの少ない伝統邦楽ジャンル、大ホールではなく展示場で開催された美術展や写真展、社会事業団主催公演以外の貸館興行などを大々的に補った。

(2) 会館の運営母体である社会事業団の調査：

会館の運営や機関誌の編集に関わっていた人物の調査や組織の性格の分析。加えて事業団が発行に関わっていた『会館芸術』以外の定期刊行物の調査等から会館運営の理念や戦略を考察する上で必要な情報を補った。

(3) 各地朝日会館の活動状況の調査：

特に同時期に開館した京都、名古屋の会館については包括的にその興行の実態を押さえる為、朝日新聞地方版や催物関連一次資料の所在調査・整理を行った。また既に地元存在した類似の多目的文化施設や各種芸術愛好団体等との関わりを調査し、各地方における役割や影響力の検討を行った。

(4) 関係者へのインタビュー調査とその記録の保全：

朝日会館を拠点に活躍した演奏団体の関係者、会館が組織した聴衆団体の元会員、元会館長の御遺族方々等にインタビュー取材を行い、貴重な証言の記録化を行った。

(5) 研究会での意見交換、討議による「朝日会館」を巡る文化活動の独自性と文化史的影響」の検討：

上記(1)～(4)の成果をもとに専門を異にする研究会メンバー全員で定期的に討議を行いこの問題に取り組む。その際、これまで「会館」は専ら関西文化における重要性や中央の文化へのアンチテーゼなどのローカルなコンテクストにおける意義付けを与えられてきたが、今回は逆に、会館の常連アーティストや会館関係者の植民地での活動、外国人プロモーターの活躍、『会館芸術』の外地への販路拡大などの事例に注目することで、昭和初期の東アジア圏興業文化における位置づけなども試みた。

4. 研究成果

本研究の成果としては以下のものが挙げられる。

(1)『會館藝術』復刻版の制作：

研究会が継続して所在調査、収集、収録記事のデータベース化等を行っていた朝日会館の機関誌的定期行物（『會館藝術』、『〇月の朝日会館』、『大阪文化』、『厚生文化』、『會館文化』、『DEMOS』）を、出版社（ゆまに書房）の協力を得て、復刻版という形で公にすることが出来た。1931～53年に亘って発行された222冊を41巻にまとめ、各巻毎に収録号の基本書誌データ、誌面の傾向や主要記事の解題等を「解説」として研究会メンバーが分担執筆した。これによって、所蔵が各地に分散して通読が困難な状況であった当雑誌へのアクセスは大幅に改善され、今後、各種芸術研究から関西モダニズム研究、昭和 문화史研究等、幅広い領野の専門家がその恩恵を受けられることが期待される。

(2)展覧会と学術シンポジウム「朝日会館と京阪神モダニズム 戦前・戦中・戦後」の開催：

2018年12月には会館のお膝元である大阪、阪大豊中キャンパスにて研究発表会・シンポジウムと会期11日間の展示企画とを実現させた。展示企画では専門領域を異にする研究会メンバー多数が協力して、大阪朝日会館の活動と機関紙『會館藝術』の歴史を多角的に捉える解説・写真パネル50余点を作成。加えて会館催物のポスター、プログラム、チラシほか当時の写真や映像等の貴重な資料を用いて会館の多岐にわたる文化活動の再現を目指した。また12月2日には大阪大学会館アセンブリーホールにて「朝日会館における越境 モダニズムとジャンル」「朝日会館における動員と大衆」をテーマにした研究発表パネルと、「文化装置としての朝日会館・『會館藝術』」をテーマにしたシンポジウムを開催した。会館における「越境」では、「総合」文化施設としての朝日会館あるいは「総合」芸術誌としての『會館藝術』におけるジャンル間の交流と混交の実態とその変遷が具体的な記事やイベントを追うことで明らかにされたほか、演劇、美術、絵本などジャンルを跨いだ総合的な同時代ロシア文化受容の窓口としての会館の隠れた一面にも焦点が当てられた。会館における「動員と大衆」では、洋楽ジャンルにおいては、会館による聴衆団体の設立（朝日学生音楽友の会）と労音等の戦後の聴衆の組織化の流れとの繋がりが指摘され、邦楽ジャンルにおいては、会館における能楽公演が、専用能舞台以外で行われる所謂「劇場能」の普及やラジオ中継の試み等、能楽鑑賞の近代化、あるいは大衆化に貢献した可能性が示された。また、まさに戦中の「動員」において歌唱指導や時局ニュースの併映等、国策と非常に近い位置にあった映画上映企画に関しては、上映プログラムや『會館藝術』誌上での特集に、単に時勢に迎合するのではない独自性を見出すことが出来た。一方、シンポジウムでは、『會館藝術』誌面の時代による変遷についての分析、会館の運営母体である社会事業団、および内部の主要人物についての調査報告、及び事業団の関連福祉事業や朝日会館の地方展開に関する紹介などが行なわれ、会館を中心に展開されていた文化活動をより包括的なコンテクストで理解、評価する為の議論の土台を整備することになった。またこれらのイベントを通して新たに関西在住の研究者の知己を得たことも成果の一つであった。

(3)パネル企画「朝日会館と関西楽壇 雑誌『會館藝術』復刻から見えてきたもの」の開催：

朝日会館の「文化の殿堂」というイメージ形成において中心的な役割を果たしたと考えられる洋楽ジャンルに関して、特に関西洋楽史における影響の評価を試みるパネル企画を、第70回日本音楽学会全国大会（2019年10月19日）において行った。「大阪土着」のものを公演するのではなく「東京」や「外国」の一流を迎え入れる芸術の「国際ステーション」としてのアイデンティティを強く打ち出す姿勢から始まった会館運営は、実際の公演内訳以上に「洋楽中心」、「海外中心」のハイカルチャーイメージを形成したが、その様な華やかな海外巨匠の来演の影で、常に変わらず地元音楽家、音楽愛好家、アマチュア演奏団体や学生などとの重要な交流が存在していた。そして戦前、戦中からのその様な交流が、戦後の関西交響楽団、関西オペラ等の重要な団体の設立にも繋がっていく。また会館後の大阪国際芸術祭、国際音楽フェスティバルの構想にも会館時代から続くアウセイ・ストロークとの交流の影響が見られ、また、その様な音楽祭を支えた地元聴衆層もまさに朝日会館によって育てられたと言うことが可能である。以上の様な観点から「朝日会館」が関西楽壇史に確かに重要な足跡を残したことをパネル全体で明らかに出来たと思う。

(4)成果報告冊子『「朝日会館」を巡る文化活動の記録化と その歴史的影響の分析』の制作：

上記3点の総決算として2020年3月にA4版99頁(うちカラー25頁)の成果報告冊子を350部作成した。多岐にわたる成果から、ここまで(1)～(3)で言及できなかったトピックに関して幾つかここで補足的に触れたい。

・会館の運営母体に関する、組織の性格や内部の人物の調査からは、特に歴代の会館長の個性が会館の運営方針や機関誌の編集方針に反映されていた可能性を指摘出来た。著名

な別荘地／住宅街である六甲苦楽園の開発者、中村伊三郎を父に持つ初代館長中村喜一郎は「阪神間モダニズム」文化を会館へと送りこむ。上述した高級芸術の「国際ステーション」としての会館アイデンティティを大々的に打ち出したのも中村館長の時代であった。また彼の土方與志との個人的な交流は会館の新劇受容に大きな影響を与えたと考えられる。（土方は会館機関誌（1946年10月号）において「大正末期以来、日本の新しい演劇運動にとって主要な役割をなしたものを東にあつて「築地小劇場」だったといふ事を許されるとするならば、西にあつては「大阪朝日會館」であったといはなくてはならないと思ふ」と述べている。また松原英治も『名古屋新劇史』（1960）の中で、名古屋朝日会館を当地における貴重な新劇の舞台であったと言及しているが、これも無関係ではないだろう。）三代目館長の赤井清司は『週刊朝日』編集者時代に培った文学者らとの人脈を『会館芸術』の編集にも生かすことになる。1939年からの総合雑誌化に伴う文学関連記事の拡充は、彼あつてのことただだろう。四代目館長十河巖は関西学院時代からの吉原治良との交流や、自らの洋画家としての交友関係を『会館芸術』の誌面作りやイベントにおける舞台美術、会館綴帳制作等、ことあるごとに活用した。また社会部労働記者時代の経験から労音・労演運動を支援することになる彼は、それらに先駆けて朝日会館において学生聴衆団体を組織している。

また運営組織の性格として、社会事業団がその資金を得る為に文化事業を行う（「芸術文化活動を通じた利益還元としての社会福祉活動」という特殊性も、様々な形で会館の運営を特色づけた。その好例の一つが充実した子供関連の催物企画であろう。もともと朝日新聞社会事業団の中心的な事業対象が「家庭と乳幼児の保健」であり、「なつてしまつてから」の慈善的行為より「ならぬさき」の社会事業」をモットーに託児所建設や保健婦事業などに力を注いでいた。そして朝日会館では開館直後より月一回のペースで子供を対象とした「清浄なる娯楽」（活動写真、唱歌、舞踊、童謡劇、人形芝居等々）を提供する「コドモの会」を開催して行く。これは最初の約5年間に7万6千人もの人を集める盛況となった。また同時に定期刊行物「コドモの本」を発刊し、会館というリアルな場を起点として、家庭をも巻き込んだ一種のヴァーチャルコミュニティを子供たちの間に形成する。更には幼児・児童芸術教室である「アサヒ・コドモ・アテネ」を立ち上げ、複数の朝日会館で展開して行った。これらは朝日新聞社会事業団が目指した文化事業と社会（厚生）事業との一つの理想的な融合の形であつたと言える。

朝日会館が手掛けた文化活動うち、これまで研究の手薄だったジャンルの補足としては、特に大阪の美術界や写真界と会館との関係に光が当てられた点大きい。まず美術の文脈で言えば大阪朝日会館の展覧場は美術団体などの展覧会会場として大阪市立美術館（1936年開館）に先立つ重要な施設であつた。特に信濃橋洋画研究所との繋がり（後に中之島洋画研究として朝日ビル内に移転）や、独立美術協会、1930年協会、二科会九室会等の前衛的傾向の積極的なバックアップは重要である。また戦後の会館機関誌の挿絵や会館公演プログラムの表紙、あるいは舞台美術などを手掛けることになる「具体」の吉原治良が最初の個展を開いたのも朝日会館展覧場であつた。市立美術館開館後は、展覧場の重要性は相対的に下がり、戦後は展覧場そのものが閉鎖されるが、その後も会館とアーティストたちとの関係は続き、上述した団体や吉原個人の繋がりを軸に関西の様々な傾向の美術家たちが会館機関誌の表紙や挿絵、カットなどを手掛けて行くことになる。また、戦後、名古屋朝日会館で発行された名古屋ABC（アサヒ・ビル・クラブ）の機関紙『ABC文化』（実態は『会館芸術』中部版）は、その創刊号の表紙を愛知洋画壇の功労者、横井礼以が担当しているが、彼は、『会館芸術』で表紙絵やエッセイ等を担当していた鍋井克之と二科会の同期であり、ここにも同じ人脈が生かされていたことが見て取れる。

写真に関しても会館展覧場は、戦前、日本写真界の中心を担っていたアマチュア写真倶楽部の殿堂として存在していた。全関西写真連盟や日本写真界関西部主催の大きなサロンが定期的にかかれるほか、浪華写真倶楽部や芦屋カメラクラブ等、阪神間モダニズム興隆を背景に日本の写真界をリードしていた名門倶楽部の写真展会場にもなっていた。また歴史的には1931年の「独逸国際移動写真展」の開催が重要である。1929年シュトゥットガルトから世界を巡回していたFilm und Foto展の日本版は、30年代に日本写真界が新興写真へと舵を切る転機になったとされる。

「朝日会館」の地方展開に関する調査では、ほぼ同時期に開館し幾つもの同一企画が巡業していた京都と名古屋の間においても、その地域独自の条件によってかなり異なる展開が見られていたことが分かって来た。一例として洋楽興行を挙げれば、京都においては、それまで演奏会の主催や企画を行っていた地元の洋楽愛好団体「京都音楽協会」と主要な

会場であった京都市公会堂の役割とを朝日新聞社会事業団と京都朝日会館が引き継ぐ形となったが、名古屋においては「名古屋市音楽協会」と名古屋市公会堂の牙城を崩せないまま、戦時新聞統合により本体の新聞事業が撤退を余儀なくされ、結局、大阪朝日会館がそうであったようなクラシックのメッカとしての会館のイメージは形成され得なかった。これは名古屋市音楽協会が京都の様な完全に民間の団体ではなく、名古屋市長の肝煎りで市役所内に設立されたいわば半官の団体だったことにも因るだろう。一方、戦後になって名古屋市音楽協会の元常任理事で中部吹奏楽の父、神納照美が、先述した中部版会館芸術とも言える『ABC文化』の編集発行人を務めることになるなど、名古屋朝日会館と市音楽協会との関係についてはこれから明らかにしなくてはならない点が数多く残されていると考えられる。

．昭和初期の東アジア圏興業文化という大きな文脈への朝日会館の置き直しによって見えて来たことの一つは、戦後の朝日会館あるいは関西の劇場文化を担っていた人々にとっての戦時の外地での文化活動体験の重要性である。特に上海にて接収したライシャム劇場や工部局オーケストラに関わった経験、あるいはそれらをきっかけに外地で結ばれた人脈が戦後の朝日会館の再始動および関西におけるオーケストラ、オペラ等の立ち上げに大きな影響を与えていた可能性を、朝比奈隆、小牧正英、草刈義人、中川牧三らのアーティストや、原善一郎、鈴木剛ら実業家の経歴を追うことによって示すことが出来たと思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計37件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 前島志保	4. 巻 25
2. 論文標題 「会館芸術」（復刻版）解説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 会館芸術 第 期 戦後篇	6. 最初と最後の頁 239 253
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井史人	4. 巻 26
2. 論文標題 「会館芸術」（復刻版）解説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 会館芸術 第 期 戦後篇	6. 最初と最後の頁 331-337
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本美紀	4. 巻 28
2. 論文標題 「会館芸術」（復刻版）解説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 会館芸術 第 期 戦後篇	6. 最初と最後の頁 259-271
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本美紀	4. 巻 29
2. 論文標題 「会館芸術」（復刻版）解説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 会館芸術 第 期 戦後篇	6. 最初と最後の頁 283-296
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本美紀	4. 巻 36
2. 論文標題 「会館芸術」(復刻版)解説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 会館芸術 第 期 戦後篇	6. 最初と最後の頁 316-327
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本美紀	4. 巻 37
2. 論文標題 「会館芸術」(復刻版)解説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 会館芸術 第 期 戦後篇	6. 最初と最後の頁 237-247
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前島志保	4. 巻 41
2. 論文標題 復刻版刊行を終えて(全体解説)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 会館芸術 第 期 戦後篇	6. 最初と最後の頁 198 201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前島志保	4. 巻 176
2. 論文標題 連載開始にあたって 朝日会館・『会館芸術』研究会の軌跡〔中之島が文化の中心だった頃 朝日会館の軌跡を巡る 連載第1回〕	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪春秋	6. 最初と最後の頁 92-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前島志保	4. 巻 177
2. 論文標題 朝日会館から刊行されていた雑誌(1) 戦前の『会館芸術』[中之島が文化の中心だった頃 朝日会館の軌跡を巡る 連載第3回]	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大阪春秋	6. 最初と最後の頁 98-99
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山上揚平	4. 巻 178
2. 論文標題 戦中期における朝日会館の洋楽興行(1938-1945)[中之島が文化の中心だった頃 朝日会館の軌跡を巡る 連載第5回]	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大阪春秋	6. 最初と最後の頁 80-81
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山上揚平	4. 巻 65(2)
2. 論文標題 パネル記録「朝日会館と関西楽壇 雑誌『会館芸術』復刻から見えてきたもの」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 音楽学	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井史人、柴田康太郎、山上揚平	4. 巻 40
2. 論文標題 栗原重一とエノケン楽団	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 演劇研究	6. 最初と最後の頁 39-64
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井史人	4. 巻 5
2. 論文標題 映像なき伴奏音楽の系譜 溝口健二、マウリシオ・カーゲル、坂本龍一	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Artes Mundi	6. 最初と最後の頁 73-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 紙屋牧子	4. 巻 51巻13号
2. 論文標題 制御から零れ落ちる過剰さ：京マチ子の身体	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 82 - 88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 紙屋 牧子	4. 巻 103
2. 論文標題 書評「北村匡平著『美と破壊の女優 京マチ子』」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 映像学	6. 最初と最後の頁 164 ~ 167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.18917/eizogaku.103.0_164	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 紙屋牧子	4. 巻 6
2. 論文標題 フィルムアーカイブの諸問題 第105回 世界最古の映画会社ゴーマン、そしてパテにおける映画保存	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 NFAJニューズレター	6. 最初と最後の頁 2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前島志保	4. 巻 105
2. 論文標題 「婦人雑誌」の誕生と出版の大衆化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 比較文學研究	6. 最初と最後の頁 27-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本美紀	4. 巻 19
2. 論文標題 20世紀初頭の日本のメディアを活用した福祉活動と、メソジスト文化としての賛美歌	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ウェスレー・メソジスト研究	6. 最初と最後の頁 7-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 紙屋牧子	4. 巻 100
2. 論文標題 紙屋牧子、最初期の「皇室映画」に関する考察：隠される/晒される「身体」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 映像学	6. 最初と最後の頁 32-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山上揚平	4. 巻 36
2. 論文標題 展覧会・シンポジウム「朝日会館と京阪神モダニズム 戦前・戦中・戦後」報告	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Newsletter REPPE	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山上揚平	4. 巻 12
2. 論文標題 「会館芸術」(復刻版)解説	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 会館芸術 第11期 戦中篇	6. 最初と最後の頁 281-289
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山上揚平	4. 巻 13
2. 論文標題 「会館芸術」(復刻版)解説	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 会館芸術 第11期 戦中篇	6. 最初と最後の頁 235-245
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本美紀	4. 巻 17
2. 論文標題 「会館芸術」(復刻版)解説	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 会館芸術 第 期 戦中編	6. 最初と最後の頁 217-223
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井史人	4. 巻 18
2. 論文標題 「会館芸術」(復刻版)解説	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 会館芸術 第 期 戦中編	6. 最初と最後の頁 225-230
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前島志保	4. 巻 19
2. 論文標題 「会館芸術」(復刻版)解説	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 会館芸術 第 期 戦中編	6. 最初と最後の頁 221-231
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 紙屋牧子	4. 巻 23
2. 論文標題 「会館芸術」(復刻版)解説	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 会館芸術 第 期 戦中編	6. 最初と最後の頁 249-256
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 紙屋牧子	4. 巻 24
2. 論文標題 「会館芸術」(復刻版)解説	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 会館芸術 第 期 戦中編	6. 最初と最後の頁 749-766
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井史人	4. 巻 41
2. 論文標題 無声期の邦画伴奏における手稿譜の使用実態 無声映画伴奏譜「ヒラノ・コレクション」の筆跡調査と 音色表現の分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 演劇研究	6. 最初と最後の頁 35-58
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前島志保	4. 巻 1
2. 論文標題 「会館芸術（復刻版）」解説	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 会館芸術 第1期 戦前篇 第1巻	6. 最初と最後の頁 237-247
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井史人	4. 巻 3
2. 論文標題 「会館芸術（復刻版）」解説	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 会館芸術 第1期 戦前篇 第3巻	6. 最初と最後の頁 351-357
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井史人	4. 巻 6
2. 論文標題 「会館芸術（復刻版）」解説	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 会館芸術 第1期 戦前篇 第6巻	6. 最初と最後の頁 295-303
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井史人	4. 巻 8
2. 論文標題 「会館芸術（復刻版）」解説	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 会館芸術 第1期 戦前篇 第8巻	6. 最初と最後の頁 291-299
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本美紀	4. 巻 4
2. 論文標題 大衆娯楽と近代社会における人間教育への一考察 救世軍幻燈上映の日英比較をめぐって -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 人間教育学研究	6. 最初と最後の頁 125-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本美紀	4. 巻 173
2. 論文標題 『共にうたうこと』から考える『うたの力』 キリスト教のうたう文化としての『讚美』と近代以来の日本の『合唱』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 礼拝と音楽	6. 最初と最後の頁 10-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前島志保	4. 巻 17
2. 論文標題 動態としての占領期雑誌研究に向けて 福島鏗郎コレクション予備調査を通して見えてきたもの	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Intelligence	6. 最初と最後の頁 35-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井史人	4. 巻 40
2. 論文標題 1920年代の邦画伴奏への選曲にみられる折衷的性格 - 日活配給選曲譜『軍神橋中佐』と楽士手稿選曲譜の分析から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 演劇研究	6. 最初と最後の頁 43-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 紙屋牧子	4. 巻 2017-5
2. 論文標題 弛緩 / 硬直する骨、腐敗 / 蘇生する肉 鈴木清順「浪漫三部作」における裏返る生と死	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 181-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計62件 (うち招待講演 17件 / うち国際学会 16件)

1. 発表者名 山上揚平
2. 発表標題 戦前～戦中期の朝日会館と洋楽
3. 学会等名 日本音楽学会第70回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本美紀
2. 発表標題 朝日会館からフェスティバルホールへ 受け継がれたもの、受け継がれなかったものからみる視点の転換
3. 学会等名 日本音楽学会第70回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本美紀
2. 発表標題 The influence of the Christian music over the school and social education in Japan.
3. 学会等名 Internationale Hymnologische Studientagung (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 Japanese Princes goes to Europe: Media Strategy of Imperial household from 1910s to 1920s
3. 学会等名 International Workshop “Media History of Japan in the Twentieth Century: Mass Media and Monarchy in Comparison and Beyond (招待講演)”
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 映像遺産の保存と活用 - 昭和天皇の欧州旅行(1921年)
3. 学会等名 研究機関等公開講座「国立映画アーカイブコース」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 Digitization of Materials at the National Film Archive of Japan
3. 学会等名 Film Librarians Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白井史人
2. 発表標題 モチーフから音響へ 1920年代のドイツにおける「オリジナル作曲」の変遷
3. 学会等名 第14回表象文化論学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白井史人
2. 発表標題 Esoterisch, heroisch oder irrsinnig? -Der Funktionswandel der Dodekaphonie in der Filmmusik der 1930er bis 1950er Jahre
3. 学会等名 Asiatische Germanistentagung 2019 in Sapporo (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白井史人
2. 発表標題 大谷巖 特集 音の世界
3. 学会等名 日本映像学会関西支部第41 回夏期映画ゼミナール (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白井史人
2. 発表標題 Politics of melody: Representation of postwar occupied Okinawa in Toru Takemitsu 's film music
3. 学会等名 Association Repertoire International d ' Iconographie Musicale 19th International Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白井史人
2. 発表標題 伴奏譜が語る1920年代ドイツ無声映画
3. 学会等名 国際シンポジウム「伴奏譜が語る1920年代ドイツ無声映画」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白井史人
2. 発表標題 新収蔵楽譜とエノケンの『孫悟空』
3. 学会等名 早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点 公募研究公開研究会「エノケン喜劇の音楽とその時代」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前島志保、清水剛
2. 発表標題 For What Purpose the Company Incorporates; the Case of Japanese Publishers in Early 20th Century.
3. 学会等名 23rd European Business History Association Annual Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前島志保
2. 発表標題 Tabloidization and the Women's magazine in interwar Japan.
3. 学会等名 гент大学言語文化学部日本学研究所主催講演(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前島志保
2. 発表標題 日本と欧米の画報誌・グラフ誌 報道媒体を中心に
3. 学会等名 第五回画報誌研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 前島志保
2. 発表標題 Consumer Cosmopolitanism in Interwar Japanese Popular Magazine Advertisements.
3. 学会等名 Northeast Modern Language Association 51st Annual Convention (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山上揚平
2. 発表標題 「会館文化」の地方展開 ～京都朝日会館と名古屋朝日会館
3. 学会等名 シンポジウム「朝日会館と京阪神モダニズム 戦前・戦中・戦後 」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 前島志保
2. 発表標題 < 會館藝術 > の変遷から考える 文化の大衆化からグローバル化まで
3. 学会等名 シンポジウム「朝日会館と京阪神モダニズム 戦前・戦中・戦後 」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本美紀
2. 発表標題 朝日会館の子供対象事業 メディアが築く福祉的・重層的つながり
3. 学会等名 シンポジウム「朝日会館と京阪神モダニズム 戦前・戦中・戦後 」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白井史人
2. 発表標題 朝日会館・『会館芸術』にみられるジャンル間の交流と混交
3. 学会等名 シンポジウム「朝日会館と京阪神モダニズム 戦前・戦中・戦後 」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 戦前・戦時期の大阪朝日会館の映画上映について
3. 学会等名 シンポジウム「朝日会館と京阪神モダニズム 戦前・戦中・戦後 」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 前島志保、清水剛
2. 発表標題 For What Purpose the Company Incorporates; Cases of Japanese Publishers in Early 20th Century
3. 学会等名 Law and Society Association 2018 Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 前島志保
2. 発表標題 Modern and Premodern: News Media in Japan
3. 学会等名 Campus Asia (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 前島志保
2. 発表標題 「朝日会館」の成り立ちと『会館芸術』の雑誌としての意義
3. 学会等名 大阪メディア文化史研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 前島志保
2. 発表標題 < 會館藝術 > の変遷
3. 学会等名 朝日会館・『会館芸術』研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白井史人、山上揚平
2. 発表標題 栗原重一旧蔵楽譜調査報告
3. 学会等名 公開研究会「エノケンの楽団と舞台・映画・レコード 栗原重一旧蔵楽譜から考える」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白井史人
2. 発表標題 Transpacific exchange and arrangement of silent film music in Japan: Imported Scores in the Hirano Collection from the 1920s
3. 学会等名 Symposium "Talking Silents: New Approaches to Early Japanese Cinema and the Art of the Benshi"（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白井史人
2. 発表標題 日本における「トオキイ音楽」批評の成立と展開 翻訳記事と掛下慶吉の批評活動の役割
3. 学会等名 第69回日本音楽学会全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白井史人
2. 発表標題 Composing on screen: the representation of composers and virtuosos in Japanese movies in the 1930s
3. 学会等名 Music & the Moving Image 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白井史人、長門洋平
2. 発表標題 『近松物語』の音響をめぐって
3. 学会等名 溝口健二生誕120年記念国際シンポジウム「近松物語における伝統と革新」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白井史人、竹内直、長門洋平
2. 発表標題 無声映画からトーキー映画初期 伝統音楽との関わり
3. 学会等名 平成30年度伝音セミナー(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 Christian Representation during the Occupation Era with a focus on Gate of Flesh
3. 学会等名 Kinema Club XVIII (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 エノケンと戦前期モダニズム
3. 学会等名 公開研究会「エノケンの楽団と舞台・映画・レコード 栗原重一旧蔵楽譜から考える」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 天皇・皇族の身体の可視化/不可視化について:大正期から昭和初期の映画を手がかりに
3. 学会等名 第69回美学学会全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 大阪朝日新聞懸賞映画『二つの玉』(1926年)をめぐって
3. 学会等名 「朝日会館」の子供を対象とした文化活動の検証及び記録化と、社会教育への影響」研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本美紀
2. 発表標題 誌上の祝祭へのアプローチ 雑誌『會館藝術』にみる大阪国際フェスティバルを準備した土壌
3. 学会等名 同時代史学会 関西研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本美紀
2. 発表標題 戦前の大型民間ホールとこどもの音楽活動 - 社団法人朝日新聞社会事業団のこども対象企画（1926年 1935年）の検討より -
3. 学会等名 日本音楽教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本美紀
2. 発表標題 戦前の民間ホール主導による子供の趣味教育とネットワーク - 機関誌『アサヒカイカン・コドモの本』と現場との関わりをめぐって -
3. 学会等名 日本音楽芸術マネジメント学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本美紀
2. 発表標題 『コドモの本』と朝日會館 現実の場を補完するバーチャルつながりの構築
3. 学会等名 第25回會館芸術・朝日會館研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山上揚平
2. 発表標題 名古屋朝日会館を巡る調査報告 名古屋朝日会館の文化的役割の評価へ向けて
3. 学会等名 第27回会館芸術・朝日会館研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 最初期の「皇室映画」をめぐって：隠される／曝される「身体」
3. 学会等名 日本映像学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 映画史から考える皇室のメディア戦略：皇太子渡欧映画（1921年）を中心に
3. 学会等名 象徴天皇制研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 前島志保
2. 発表標題 Dominant, yet Marginalized: The Position of the Mass-Market Women's Magazine in the Controversies over the Print/Reading Culture in Interwar Japan.
3. 学会等名 The Second Annual International Conference of the International Association of Japanese Philosophy（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 前島志保
2. 発表標題 Reconfiguring 'Ga' and 'Zoku' in Modern Times: Mass-Market Women's Magazines and the 'Revolution' of Print Media in Interwar Japan.
3. 学会等名 15th International Conference of the European Association for Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 前島志保
2. 発表標題 19世紀後半から20世紀前半における視覚表現による報道媒体 日本と欧米の場合を中心に
3. 学会等名 20世紀メディア研究所 第115回研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 前島志保
2. 発表標題 モガと主婦 二つの消費者類型の形成と展開
3. 学会等名 第11回学際日本駒場フォーラム《モダン・ガールの時代》(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 前島志保
2. 発表標題 The Revolution in Print/Reading Culture and the Women's Magazine in Interwar Japan.
3. 学会等名 Universite de Strasbourg (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 前島志保
2. 発表標題 Photo Reportage Appearing in an Interwar- and War-time Japanese Women ' s Magazine Shufu no tomo.
3. 学会等名 ワークショップ「日中戦争をめぐる報道と宣伝及びインテリジェンス(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白井史人
2. 発表標題 「1920年代の映画館楽士と楽譜 早稲田大学演劇博物館所蔵『ヒラノ・コレクション』の分析と活用」
3. 学会等名 おもちゃ映画ミュージアム 若手研究者発表会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白井史人
2. 発表標題 『軍神橋中佐』(1926年、日活)の間メディア性 選曲譜、字幕、SPレコード
3. 学会等名 京都大学映画コロキウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白井史人
2. 発表標題 歌声の視聴覚的構成 オペラ・ミュージカル映画におけるその劇的機能
3. 学会等名 日本音楽学会 東日本支部 第46回定例研究会シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白井史人
2. 発表標題 山田耕筰と映画の音楽 『戦国群盗伝』(1937)と『川中島合戦』(1941)の分析から
3. 学会等名 日本音楽学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白井史人
2. 発表標題 「ポピュラー」楽曲の劇的効果と流通 《ムーン・リヴァー》を例に
3. 学会等名 日本ポピュラー音楽学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白井史人
2. 発表標題 ヒラノ・コレクションから見る場面別表現と邦楽器
3. 学会等名 早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白井史人
2. 発表標題 Stylized Noises in Silent Film Accompaniment in Japan: A Mixture of Japanese and Western Instrumental Sound
3. 学会等名 Music & the Moving Image XII (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 前島志保
2. 発表標題 The Birth of the Modern Consumer Culture and the 'Modern Girl' in Japan
3. 学会等名 特別講座「アジア共同体と言語・文化・消費」(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 前島志保
2. 発表標題 大衆的婦人雑誌と出版革命
3. 学会等名 東京大学駒場祭公開講座(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 白井史人
2. 発表標題 無声映画伴奏譜「ヒラノ・コレクション」の手稿譜研究 筆跡調査からみる 1920年代の無声映画館楽士による楽譜使用の実態
3. 学会等名 第67回音楽学会全国大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 白井史人
2. 発表標題 The PCL Orchestra between Brecht and Hollywood: the Modernization and Americanism of Orchestra Music in Japan during the 1930s
3. 学会等名 20th Congress of the International Musicological Society (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 最初期の「皇室映画」をめぐって：隠される/曝される「身体」
3. 学会等名 日本映像学会第43回大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 About Hirano and the movie he played
3. 学会等名 公開セミナー「無声映画伴奏の復元へ向けて 日本とアメリカの事例」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山上揚平
2. 発表標題 名古屋朝日会館および同時代競合施設に関する資料調査報告
3. 学会等名 第22回朝日会館・会館芸術研究会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 山上揚平、前島志保、岡野宏、朝日会館・会館芸術研究会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 朝日会館・会館芸術研究会（制作）	5. 総ページ数 99
3. 書名 「朝日会館」を巡る文化活動の記録化とその歴史的影響の分析	

1. 著者名 前島志保、長木誠司、ヘルマンゴチェフスキ（監修）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ゆまに書房	5. 総ページ数 -
3. 書名 『会館芸術 第 期 戦後篇』 第一回配本 全9巻	

1. 著者名 前島志保、長木誠司、ヘルマンゴチェフスキ（監修）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ゆまに書房	5. 総ページ数 -
3. 書名 『会館芸術 第 期 戦後篇』 第二回配本 全8巻	

1. 著者名 紙屋牧子（共著）（加藤幹郎 監修、塚田幸光 編著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 332（分担頁 263 - 264）
3. 書名 映画とジェンダー / エスニシティ	

1. 著者名 前島志保、長木誠司、ヘルマンゴチェフスキ（監修）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ゆまに書房	5. 総ページ数 -
3. 書名 『会館芸術 第11期 戦中篇』 第一回配本：第12巻～第17巻	

1. 著者名 前島志保、長木誠司、ヘルマンゴチェフスキ（監修）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ゆまに書房	5. 総ページ数 -
3. 書名 『会館芸術 第11期 戦中篇』 第二回配本：第18巻～第24巻	

1. 著者名 前島志保（共著）（東京大学教養学部 編）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 270
3. 書名 分断された時代を生きる	

1. 著者名 前島志保（共著）（河野至恩、村井則子編）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 288
3. 書名 日本文学の翻訳と流通	

1. 著者名 前島志保、長木誠司、ヘルマンゴチェフスキ（監修）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 ゆまに書房	5. 総ページ数 -
3. 書名 会館芸術 第1期 戦前篇』 第一回配本：第1巻～第5巻（全5巻）	

1. 著者名 前島志保、長木誠司、ヘルマンゴツェフスキ（監修）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ゆまに書房	5. 総ページ数 -
3. 書名 会館芸術 第1期 戦前篇』 第二回配本：第6巻～第11巻（全6巻）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

朝日会館・会館芸術研究会 http://fusehime.c.u-tokyo.ac.jp/gottschewski/kaikan/

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	前島 志保 (MAESHIMA Shiho) (10535173)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授 (12601)	
研究分担者	山本 美紀 (YAMAMOTO Miki) (60570950)	奈良学圃大学・人間教育学部・教授 (34604)	
研究分担者	白井 史人 (SHIRAI Fumito) (20772015)	名古屋外国語大学・世界教養学部・講師 (33925)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	紙屋 牧子 (KAMIYA Makiko) (20571087)	独立行政法人国立美術館東京国立近代美術館・フィルムセンター・客員研究員 (82621)	
研究協力者	李 賢峻 (Lee Hyun Jun) (40708369)		
研究協力者	井口 俊 (IGUCHI SHUN)		
研究協力者	大西 由紀 (ONISHI Yuki) (20794176)		
研究協力者	大森 雅子 (OMORI Masako) (90749152)		
研究協力者	岡野 宏 (OKANO Hiroshi)		
研究協力者	熊倉 一紗 (KUMAKURA Kazusa) (40645678)		
研究協力者	ヘルマン ゴチエフスキ (Gottschewski HERMANN) (00376576)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	佐々木 悠介 (SASAKI Yusuke) (20750730)		
研究協力者	高山 花子 (TAKAYAMA Hanako) (40789070)		
研究協力者	長木 誠司 (CHOKI Seiji) (50292842)		
研究協力者	中尾 薫 (NAKAO Kaoru) (30546247)		
研究協力者	中村 仁 (NAKAMURA Jin)		
研究協力者	古館 遼 (Furutate Ryo)		
研究協力者	茂木 謙之介 (MOTEGI Kennosuke) (00825549)		